



未来への一歩。共に築く新たな時代への可能性

羽幌町長 森 淳

新年明けましておめでとございませう。希望に満ちた令和6年の輝かしい新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げますとともに、日頃より町行政に対し、多大なるご理解・協力をいただき、ありがとうございます。厚くお礼を申し上げます。

昨年5月の町長選挙におきまして、町民各位のご支持を賜り、当選の栄に浴しましたことは、身に余る光栄であり、感激ひとしおのものがありますが、反面、大きな責任をいただいたものと痛感しているところであり、皆様の信頼と負託にお応えするためにも、全力で町政運営に努めてまいります。

令和5年を少し振り返りますと、新年早々から、冬の気圧配置の影響により風雪が強まり、道央自動車道が1日夜から3日夜まで通行止めとなつたほか、JRや都市間高速バスが運休となるなどUターンラッシュに影響がでた年明けとなりました。

全世界で猛威を振るつた新型コロナウイルス感染症についてであります。感染症法上の分類を2類から季節性インフルエンザと同じ5類へ5月8日

から変更することが1月に決定され、マスク着用や感染対策は個人・事業者の判断に委ねられるなど、以前の生活に少しづつではあります。5類移行後は、報道等で「4年ぶり」という言葉を聞かない日がないくらい、イベントやお祭りの報道を耳にし、本町においても、羽幌神社例大祭におけるみこしや加賀獅子などの練り歩き、焼尻めん羊まつりのほか、ふるさと大盆踊り大会などが行われ、町民をはじめ多くの観光客やお盆における帰省客に、羽幌の夏を楽しんでいただけたものと思います。

また、昨夏は、全国各地で厳しい暑さとなり、北海道においても、道内の観測地点で気温30℃以上を観測する真夏日が44日連続で観測され、これまでの連続真夏日記録の30日を大幅に更新したほか、令和3年から全国で運用を開始した「熱中症警戒アラート」が運用開始以来初めて北海道全域に発表されました。本町でも、焼尻で観測史上最高の32.4℃を観測し、羽幌においても観測史上2番目に高い34.3℃を記録したところであります。

町行政では、4月から医療費無償化の対象を高校生を含む18歳以下までに拡大したほか、インフルエンザ予防接種の費用助成についても高校生年齢の方へも拡大したところであります。9月には、脱炭素化社会の実現と本町の豊かな自然環境と景観を守るため、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を宣言したほか、飼育員の確保等に苦慮し、牧場の焼尻めん羊牧場について、複数の民間事業者から牧場を継承したい旨の申し出があり、その1つを継承先として選定し、民間事業者へ継承したところです。

また、本町出身者の前川富義氏より町内の子どもたちに家庭の経済状況に関わらず大学進学を奨励したいとの思いから本町へ3000万円の私財寄付を賜り、前川氏の意向を踏まえ、かつ、寄附者である前川氏の名前を後世に残すべく、「前川富義奨学金基金条例」を設置し、有効に活用させていただくこととしました。昨春の卒業生から6名が道内国立大学に合格し、2年連続で国立大学合格者6名を輩出して

している羽幌高等学校においても、今後、更なる優秀な人材の輩出に期待したいところであります。

本年も、依然として厳しい状況が続く幾多の試練が予想されますが、町民の皆様と職員が共に「新たな時代への可能性」を拓き、「未来に希望を持てるまちづくり」を進めてまいりたいと考えております。

引き続き、町民、議会そして町が密接に連携し、皆様にとつて住みやすい町にし、地域産業の活性化と活力ある地域づくりに努め、留萌管内の市町村と連携し、地域全体を発展させることに全力で取り組んでまいりますので、町民の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、今年一年が皆様と共に明るい希望に向けて歩み進める年となりますことを心からお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。